

令和元年度 第1回みのかも定住自立圏構想共生ビジョン懇談会

令和元年11月6日（水） 13時30分～15時45分

美濃加茂市役所第2議会委員会室

議 事 録

○参加者（敬省略）

<ビジョン懇談会委員>

- ・加藤 武志
- ・岸田 眞代
- ・高嶋 舞
- ・加藤 慎康

1. あいさつ

2. 懇談会

みんなで子育て応援事業（坂祝町）

坂祝町 （担当者報告）

岸田委員 一覧表にしてもらったら、すぐわかるのにな。気になりました。今後やっていただきたい。ボランティア団体に登録されたとのことですが、何名がいくつの団体に登録されたのでしょうか。

坂祝町 団体は、1つ。ボランティアは、過去2年間で9名が活動を始められています。

岸田委員 つまり新たに9名が新たにやっつけらっしゃると考えていいのですね。

坂祝町 そうです。本当に参加しているのかどうか追及はしておりません。意欲があって登録されておられます。

岸田委員 そういう場があるということですね。

坂祝町 はい。主に中央公民館で行われるイベント、会議のときに託児がありますよと出させていただいて、お母さん方が来ていただいたときに希望があれば必要な人数だけ手配するという形です。

岸田委員 坂祝町として、やって何がよかったですか。

坂祝町 まずボランティアになるきっかけ作り、またやってみたいがどうしたらよいかや、基礎知識を得ていただいて、子育てが終わった方に参加していただき、実際に登録されたのは大きな成果だったと思います。また、生活に役立つ知識ということで、講座をやっていただきましたけれども、お母さん方は、子育て中で周りに相談する方がいないとか、特にア

パート暮らしの方とか、そういった方に、行政も力を入れておりますよというアピールも込めてこういう講座をやっております。お母さん方も参加して勉強になったとか、子育てから解放されてレッスンを受けられたとかの意見をいただいております。講座の最後に交流の場をもって、坂祝町に愛着を持っていただいて、アパート暮らしの方には、坂祝町にこのまま住んでいただければ最高かなという気持ちでやっております。

岸田委員

気持ちでどうだったとかではなく、結果はどうだったのか。結果を端的に聞きたい。

高嶋委員

ありがとうございました。参考までに。オカビズで、助産師さんの起業のお手伝いをしていたのですが、産後ケア事業を立ち上げる助産師さんだったのですが、彼女と話す中で、1割くらいの初産婦さんが産後うつになると。実は、お父さんも産後1割くらいの方が、うつになるとのデータが出ています。お母さんと仲が良なくて、里帰りできない核家族のケースがあるんです。産後うつになるのは、もうちょっとうまいこと赤ちゃんを扱えたら、産後うつにならない。泣き止まないとか、不慣れな状態で産院から出されて、産後うつになるという話を聞きました。1泊2日の育児合宿をやろうという話になりまして、今やっています。産院であまり教えてもらえずに出されちゃう人が非常に多いので、抱き方を変えるだけで泣き止むとか、ミルクの与え方を変えるだけ飲むようになるとか、よくある。お父さん、お母さんは、産院から出た直後はスキルがそんなに変わらなくて、一緒のタイミングで教えられれば同じようにスキルアップできれば、お母さんひとりでワンオペしなくていいという話をしている中で、この事業では、もう少し下の世代に目を向けて講座を開けば、もう少し社会課題を解決できる。そういうことをやっている自治体はほとんどない。そういうことに目を向けてみると、坂祝町は子育てしやすいとか、もうワンステップいけるのかな。今の段階はもう少し育った子がターゲットかなと思うので、産後直後のお母さんに向けてもプログラムがあると充実するのかなと思います。

加藤（慎）委員

一つだけ。託児ボランティアが進むことで、中央公民館でやる講座のサポートができたのか、市民活動とか。マルシェとか女性団体でやるイベントとかで託児ボランティアが役に立ったとか、そういうのはありますか。

坂祝町

そういう体制にはなっております。公民館で行われる講座の託児が主で、夜行われる会議に自治会の方を呼ぶとか、そういうときにも託児を呼ぶことはできるのですが、そこまでアピールできていない状況で行政の手が進んでいないところです。体制は整っておりますので、やりたい

と思っています。

みのかも魅力発信！名古屋交流拠点事業（美濃加茂市）

美濃加茂市 （担当者報告）

加藤委員 広域観光の効果の実証というのが事業評価で出ていて、いち市町村では魅力に欠けるから一緒にやるとおっしゃってました。それを継続しないで、それぞれのやり方でやるというのは、どういう風にやるということか。広域で資源がつながるからよいのではないか。

美濃加茂市 事業費を懸けずに、具体的に担当者より出てきたのが市町村のつながりを生かしていくことはできるので、私共が協力して名古屋のツアーをやったときにこんな評価がありましたという、商品の持ち込みであったりとか、プロモーション活動ができるといいなという話をしました。この事業をやる中で美濃加茂市が中心市で絡めてやらなければならなかったもので、東白川、白川へツアーをやったときに美濃加茂市を絡めると非常に日程が厳しかった。であれば、東白川、白川のツアーを組んだりとかできるので、美濃加茂市と八百津町の組み合わせなど、近いところの組み合わせで前向きな形でできる。お金をかけずに広域連携の仕組みを生かしてやっていくこともできる。

加藤（慎）委員 このツアーの中でオリジナルの商品が出ている。そういったものは、これからはお店とかで生かしていく形なのか、広域の中で発信していくのか。

美濃加茂市 来年度以降の展開に向けて、担当者会議はそこまで踏み込んでいません。秋のツアーでも使わせていただいている東白川、白川町の地歌舞伎は非常に強いコンテンツでお客様からも高い評価をいただいておりますので、そこと組み合わせて、SNSの「すき・かも」はそのまま維持していきますので、情報発信していったりとか、黒川も前向きなので、白川町と協力して発信したり、商品展開の動きは自治体で考えていただきたい。私共も酒蔵とかとやっていきたい。

岸田委員 広域観光のところですが、「補完作用によりよい観光商品となること」と書かれていますが、例えばどういう補完ができたのか。

美濃加茂市 美濃加茂市の立場で考えると、寄っていただくスポット、休憩スポット、おみやげを買えるスポットが中山道会館、ぎふ清流里山公園がある。地歌舞伎はない。飛水峡のような絶景ポイントもない。美濃加茂市に遊びに来て、少し足を延ばすとそのような観光ポイントがあると。八百津町には栗きんとんがある。しかし、まわるところというに限られてくるのでお菓子をコンテンツにしながら周辺の景色のよい秋のツアーを

組んだりとか、そんなことができるのではないか。お互いに自分のところのものを中心に置きながら、近くの市町村の資源を生かして、魅力的な観光商品が作れるようにという話しが出ています。

岸田委員 それはやったってこと？

美濃加茂市 やった実績を。すべての組み合わせを試したわけではないので、いろんなことができるよねという話しが出ています。

岸田委員 その組み合わせを使ったということですか。

美濃加茂市 そうです。

高嶋委員 事業としてやらないということなので、どこまで参考になるかわかりませんが、二つあります。一つは、インスタで「#すき・かも」と調べてみると、そんなに上がっていない。100件前後、100件未満。このアカウントを生かして情報発信するとか、フォロワーをたくさん付けるよりも、インスタをたくさんやる人たちにいかに「#すき・かも」を発信してもらうかを考えた方が、省エネでもっと「すき・かも」が広がる。もう一つは、日本酒とかスイーツとかが非常に強いコンテンツと思ったときに、今トレンドの飲み比べ食べ比べはちょっとずつ全種類が試せるのは、飲食店でも行われていたりとか、販売物にも、ちょっとずつワンセットでの販売が売れていると捉えると、例えば栗きんとんの食べ比べをしようと全種類買うより、全種類入れていただいた方が買うだろうと捉えると、広域での商品力の強さはあるだろうと思う。そういったことから、実際に買いに行こうという魅力につなげるのは手としてあると思う。どういう主導で誰がやるのかという問題はあるが、そういうような取り組みをされていくと、この地域の魅力はさらに伝わっていくかなと感じました。

美濃加茂市 美濃加茂市のインバウンド推進事業の中で、地域商社を育成していこうという動きもあります。地域商社は、地域のよいものを集めて商品にしていこうということで、今、先生がおっしゃったようなことになってくると思うので、飲み比べセット、食べ比べセットはおもしろいなと思いました。

名古屋市民をみのかも定住自立圏域へ招くツアー事業

白川町 (担当者報告)

岸田委員 わかりやすかった。白川町への移住は3名。他は0ということでしょうか。

白川町 調べることができていない。

岸田委員 できていない？ということは、連携がうまくできなかったということ

でしょうか。

白川町 かもしれない。

白川町には移住サポートセンターがありまして、そこを通して入ってこられた方が3人という確認がとれています。他の自治体で数値を確認する手段がないのと、白川町でもサポートセンターを通じて把握している人数は3人ということです。

加藤委員 通さずに転入していたらわからないということか。

岸田委員 3人という評価は、白川町としては目標が6人だったけれども、これでOKという感じでしょうか。

白川町 多い方がありがたいです。最初2年間は試行錯誤で、残りの3年間で2人ずつ、という設定で6人としておりました。今年度は2人。実際ツアーをして、すぐに移住ということにはならない。

加藤委員 どういう方が移住されたんでしょうか。

白川町 1人は婚活ツアーで地元の方と結婚されて。残りの2人の方は、ツアーのあと町内巡りをされて、黒川地区に雑穀の作業をされる方、男性の方がもうひとり連れてこられて、その方もカウントして、2人。

岸田委員 ツアーのあと、独自に来られて？

白川町 そうです。

加藤（慎） 質問ではないが。中心市的美濃加茂市の部署が移住定住の専任セクションがなかった。まちづくり課に移住定住が移管されましたので、そういう部署だったら、もう少し熱くお付き合いできたのかもしれない。これからも大々的にやっていただきたらと思います。

白川町 確かに、入り口は観光、交流人口で、目標は定住になるので、出口の部分は違うが最終的に第2次の部分は定住を置いているので、それがきっかけになればいいなと思っている。話をする中でズレてくる部分は担当者の中であったのかなと思います。

岸田委員 さっき写真の中で舞台があって、説明しているような写真があったが、何をやっているところだったのでしょか。

白川町 東座という明治に建てられた芝居小屋がありまして、そこで、地元の方が説明しているところです。10日曜日にここで歌舞伎をやるんです。実際に地元の伝統文化に触れてもらうんです。このツアーはほとんど体験が主です。

加藤委員 ツアーのお客さんの年齢層が高めですね。

高嶋委員 ツアーの年齢層の方と、定住されるかたの年齢が合わないですけども、ファミリー層に向けて、夏休みの自由研究のツアーをしてみると、料金的にはある程度補完されるし、ファミリーが定住するかしな

いか、検証できたりすると思うとおもしろいと思う。

白川町 ファミリー向けツアーもやっています。やはり、アンケートとると、移住したい気持ちはあるが今すぐにではないと、将来に白川町を選びたい気持ちはあるということでした。

交流の場の提供とレッキーマラソンコース沿いの環境整備事業

七宗町 (担当者説明)

岸田委員 3つの事業実績の中で、いつ、何人参加したかのデータはありますか。

七宗町 すべてもっております。年間活動日数は21日。参加者人数は、13人中2名が休会中、11名。平均8名から9名が参加している。月に2回のペース。4月から12月が2回、1月から3月が1回です。

岸田委員 会員以外の参加もあったのでしょうか。

七宗町 そうですね。イベントでは、地域住民や保護者の参加をいただいています。

岸田委員 小学校の保護者の参加はいたのでしょうか。

七宗町 80名。お子さんから地域住民の方から含めて。歌舞伎は30名弱。継続のために資金が必要とあるが、いくら必要か。また、どんなことに使うのか。

七宗町 燃料代。活動が増えれば増えるほどかさんでいく。小学校の交流費用、飲食費、メンテナンス費。今後にも必要になってくる。機械は、今までの物をメンテナンスしながら使っていこう。

加藤委員 年間どれくらい？

七宗町 町には、年間35万円くださいと言っています。

高嶋委員 レッキーマラソンの主催者とはどういう関係なんでしょうか。

七宗町 七宗町主催です。七宗町が主催で、実行委員会体制です。

高嶋委員 レッキーマラソンは何人参加されるのでしょうか。

七宗町 だいたい1,000人くらいです。

高嶋委員 今サイトを見ると、ひとり1,500円くらいとられているようなんですが、200円から300円整備代としていただければよいのでは。

七宗町 レッキーマラソンは10kmで、民家のない山間コースを走りますので、民家のない山間が私共の活動区間。3km。

加藤委員 広げていきたいか。

七宗町 広げるには、集落との連携もとっていきたいのですが、ほとんど民家があるので地主がおられるところもある。

- 加藤委員 調整が必要ですね。
- 岸田委員 若葉会独自でやっていたときと、事業の中でやったときの違いは。
- 七宗町 質問に100%応えられないかもしれませんが、今までは草が草ポーポー、杉ヒノキで路面に日が差さないとか。それを、整備することにより光を得られましたし、動物と車の衝突も減ってきた。
- 岸田委員 町と一緒にやらなくても一緒だと思うんです。「町と一緒にやった」という何かプラスは具体的にありますか。
- 七宗町 そういう捉え方はしていません。
- 岸田委員 それをぜひしていただきたい。それをしないといけない。
- 加藤（慎）委員 すごくいい事業で、河川がきれいになっている。逆に走っている人たちにそれが実際伝わっているかどうかわからない。ひとつ提案ですが、宿泊施設がひとつできました。個別で宿泊をオーダーされると思うのですが、レッキーマラソン参加者プログラムを作って、若葉会のみなさんが行って、前夜祭のように交流して、こうしてきれいにしたよとお話しすれば、ひょっとしたら来年度にはお手伝いに来てくれるかもしれない。関係人口からもっていけば、今やっている関係人口から花が咲くのではないかと思います。夏に遊びに来いよとか、泊まりに来いよとか、関係人口をうまく作ることができればいいと思う。
- 七宗町 こちらからPRも必要ですね。以前は、活動写真を展示会に貼らしていただいていた。
- 加藤（慎）委員 以前泊まれた方が、朝新米のごはんを出してくださっておいしかったと。七宗の米はおいしかったと言っていました。

でか金を媒体にした地域づくり事業

- 七宗町 (担当者報告)
- 加藤委員 事業は完了ですね。
- 七宗町 はい。
- 加藤委員 定住自立の枠組みでやるのは完了ということですね。
- 七宗町 はい。2次ビジョンでは完了ですが、引き続き自力でやっていく。
- 岸田委員 七宗町と一緒にやったメリットは。
- 七宗町 ふるさと祭りのイベントに参加して、たくさんの人に来ていただくので助かります。今のところふるさと祭りだけです。
- 岸田委員 自慢大会は別？
- 七宗町 その時にやります。
- 岸田委員 ふるさと祭りの中で、自慢大会をやる。
- 七宗町 表彰とかもしてもらっています。

岸田委員 何人くらいの方が参加されたんですか。

七宗町 15名。

加藤委員 みんな持ってくるのですか。

七宗町 そうですね。育ててもらったものを出して、やっています。

岸田委員 この写真？

七宗町 地元が熱く盛り上がってくれるので。

岸田委員 関心度は、今までとは違う高まりが出てきているのでしょうか。

七宗町 「〇〇で見た」と言って来てくださります。

岸田委員 例えば、それは町とやったからということは背景にあるのではないか。

七宗町 そうですね。

岸田委員 事業として言っとかないと！

七宗町 一番多いのが、さとやま公園で見ましたと言って七宗までお客さんが来る。

岸田委員 たけしま水族館の可能性はどれくらいあるのか。

七宗町 アクアトトの企画に沿うと、出してもらえる。金魚の企画があれば。

岸田委員 イベント的な。

七宗町 イベント的が大きいです。

岸田委員 企画を持ち込めばいいのに。

加藤（慎）委員 地域でみなさんが好きだというのが、ストーリーで出てくるのがよい。東海テレビでやっているアクアリウムの見せる展示で、扱っていただけだと、「なんだ！この金魚！」という扱いになるのでは。

高嶋委員 この、でか金を町の名物まで持ち上げようとする、和菓子屋さんとか、コラボしてでか金饅頭を作るとか、メガサイズのものって比較的今取り上げられやすいので、単純に大きいカツ、でか金カツのような、なんでもでか金とコラボしたもの、町の名物とするか重要なポイント、地域の活性化につながる。

七宗町 今いただいたご提案がいいのではないかと思いますので、みんなで考え、地域の飲食店に提案していこうと思います。

加藤委員 七宗に和菓子屋さんはありますか。

七宗町 和菓子屋は1軒あります。神淵まつたけという、まつたけの形のお菓子があります。

加藤委員 でか金いけますね！

七宗町 落雁のような大きなものを作っている。ふるさと納税でもあるが、なかなかない。

加藤委員 落雁は、そう食べないですね。

七宗町 そうなんです。
加藤委員 でか金食べるのに抵抗ないか。
七宗町 中にはお客さんで、大きな金魚を見せると、「これはフライがいい」とか。
加藤委員 それは生々しい。
加藤（慎）委員 高浜高校が、たい焼きのような形を作ってやっているんですよ。コラボされては？
七宗町 カステラとかどうかと思ったんですが、型に結構なお金が。
加藤（慎）委員 かかるんですよ。高校生と組むとまた広がるかなと思います。
岸田委員 こういうのをこの事業の中でやればよかったよね。
七宗町 そうですね。

「龍神さんが棲む箱庭のまち」まちづくり事業

七宗町 （担当者報告）
岸田委員 登録者件数は、４７件から２３０件とのことですけど、対応する人はどれくらいいるのでしょうか。
七宗町 全部で８人。
岸田委員 まだ８人？増やせないんですか。
七宗町 なかなか。若い人来ていただきたいが。ボランティアですので、協力していただける人が少ない現状で、頭を悩ませている。
岸田委員 町として開拓していく方法は見えていないですか。
七宗町 まだそこまで話をしていません。自分たちだけで活動している。町としても、困っていると思う。
七宗町 今年度で終了、単独継続している。町としても重要なところですので、来年度に向けて一緒にやっていきたいと思います。話し合いをしています。人集めもこれからでてくることです。
岸田委員 人が集まらないのであれば、実費をもらえるような方向を出すとか、もうちょっと検討していけそうな気がします。
七宗町 はい、わかりました。
高嶋委員 この送迎というのは？
七宗町 美濃加茂の眼科、病院、買い物が多い。移送サービスのある人はいいが、ない中間の足のない人に。
加藤委員 令和元年に始まって、２３０件？
七宗町 たぶんこれくらい行くだろうと。
加藤委員 類推するとですね、２３０件ですか。大変ですね。
町にお伺いしたいのは、おたすけ部会は、七宗町のエリアの中でどれ

くらいですか。

七宗町 上麻生、神淵地区。半分くらいのエリアを賄ってもらっている。それでも、一部エリア。

加藤委員 福祉サービスの形で、やっていこうというお考えはあるのですか。

七宗町 そうですね。飛騨川流域さんで、やっていただいた部分で、今年度で終了で、来年度どうしようというお話になりまして、今度は住民課でその支援をしてもらおうと進んでいる。そこで何かしらの金銭、補助、委託が出てくると聞いている。

加藤委員 お金をどう回すか、町としてどう支援するか、計画的に考えるいいモデルケースであった。これくらいニーズがあったということですからね。それを8人でカバーするのは大変とわかったので、どうしていったら継続していけるか考え、一緒に。会に押し付けるのではなく一緒に考えることが大事だと思いました。

七宗町 一緒に考えながら行きます。

加藤（慎）委員 サロンのなところは解放されたりしているのでしょうか。

七宗町 わら細工、機織りのグループが隔週で使っています。我々の隔月の打ち合わせはここでやっています。

加藤（慎）委員 国道41号線のよい場所ですので、やっていることが分かれば立ち寄りたと思っております。「やっとる！」とわかると関係人口を作れると思います。登山道の整備のあと、あそこで懇親会を行えると、三和の方に来てもらうと、交流施設兼サロンのような使い方ができればいいなと思いました。ラーメン屋さんでも、やってないように見えて「やっとるで」と書くようなところありますよね。あのような感じで。

里山再生プロジェクト事業

美濃加茂市 （担当者報告）

岸田委員 企業と一緒に整備しているとのことで、中部電力がでましたが、その他はどこか企業は？

美濃加茂市 現在、作業支援、肉体労働をしていただいているのは、中部電力だけです。整備の費用支援ということで、豊田合成。楽天はお金の支援は終わったのですが、空間は使わせていただいています。基本的には、維持管理をしなくていいような山の整備の仕方を企業のお金でやっているの、楽天も整備支援のお金は終わったのですが、一度も草刈をしなくていいような管理を森林組合さんにやっていただいたので、夏は広葉樹が広がり、あまり下草が生えない。冬は、葉っぱが落

ちて日当たりのよい山になる。そういう山の整備をしてくれているので維持管理をしなくてよい山になっております。中部電力、豊田合成、楽天が企業支援してくださっています。

- 岸田委員 地元の企業は？
- 美濃加茂市 地元の企業は、地域住民という形で関わっています。
- 岸田委員 そこで働いている方が、関わりたいと？
- 美濃加茂市 地元の小さな企業との関わりはないのですが、その社長や、働いている方を「地域の方」という位置で整備を一緒にやっています。
- 岸田委員 その企業名を明らかにしていけば、新しい公共のひとつの形が具体的に見えてくるのではないのでしょうか。
- 美濃加茂市 そうですね。取り組みで、自分のヘルメットに関わっていただいた企業のシールを貼っています。このヘルメットにシール貼りませんか、地元の企業の方に話しています。
- 加藤委員 すごいですね。スポンサー集め。
- 美濃加茂市 インタビューとかありましたら、ちゃんとヘルメット被ってやりますからと話しています。
- 岸田委員 地元だと6団体と書いてありますけれども、これは美濃加茂市ばかりですか。
- 美濃加茂市 違います。他の地域も入っています。美濃加茂が2。作業にかかわっている方は1回に20人くらい。美濃加茂のある地域は、毎月必ず1回やると決めていて、ものすごくきれいに保っていただいています。そこは、20代から70代まで。
- 加藤委員 20代？
- 美濃加茂市 薪ストーブを付けた方が、「蒔が欲しい」と美濃加茂市に言ってきて、「あそこが今整備しているから蒔出せるよ。参加してくれば蒔出せるよ」と言ったら、その子が毎月毎月山の整備に来てくれる。ウィンウィンで。
- 加藤委員 薪ストーブ販売会社と何かあるといいかも。
- 美濃加茂市 美濃加茂市は30万。この辺の木を使うと。
- 加藤（慎）委員 薪ストーブ補助金。
- 加藤委員 どう？
- 美濃加茂市 すごく上がって、すぐなくなっちゃう。
- 加藤委員 さっき言っていた蒔の販売は、どこで売っているの？売り始めたばかり？
- 美濃加茂市 そうです。先年度から気合を入れて売り始めたんですが、20代の子が入っているところは、ネットで販売をしたりとか、もう一つの団体

はチラシです。

加藤委員

売れている？

美濃加茂市

リピーターがいます。今後は「蒔」をもう少し使っていきたい。耕作放棄をした土地が荒れてしまって山と化している部分もあるので、そこを整備して蒔を上手に使っていく。

「工作放棄茶園活用にも期待！」と書いてあるのは、耕作放棄をされた茶園の木を背丈より高いのは切って、木ごと茎ごと焙煎していく取り組みをやっていて、11月2日に七宗町でやってみたときに、私も背の高い木をハサミで切ってきて、葉っぱと細い枝と幹に分けて切つて、蒔で焙煎して、みんなで飲んだ。おいしいです。放棄しあるから、無農薬のお茶。そうすると、その奥の里山も整備できる。茶畑が荒れると、山にも入れない。茶畑が整備されると山にも入れる。そうすると、水田のイノシシの被害も解決できる。蒔の焙煎なので、もっと蒔を利用できるので、周りのおじさんたちのモチベーションがあがるような取り組みができる。

加藤委員

素晴らしい。残念ですが、終了します。

K i s o ジオパークにぎわい創出事業

美濃加茂市

(担当者報告)

岸田委員

坂祝町の関わりは？

美濃加茂市

坂祝町とは、川を共有の財産と捉えて、ソフト事業の連携をしている。河畔の遊歩道。

岸田委員

さらに伸ばして？

美濃加茂市

そうですね。すでにある坂祝町の遊歩道にソーラーライトをつけて、坂祝町とハード的な連携と、ソフト的な面では、川のリスクマネジメントを、先週坂祝町の学校の校長先生にアピールしてきたところです。坂祝町も前向きに検討してくれる。

岸田委員

そこに可児市が関わって？

美濃加茂市

そうですね。今まさに川まちづくりをやっていますので、連携していく話は可児市としております。

岸田委員

アートシェアリングの意味は？

美濃加茂市

子どもにアートを体験させるだけでは、この定住でやる意味がないので、子どもにアートを体験してもらおうのですが、ここにある自然環境を取り入れたアートを提案し、毎年手を変え品を変えやっている、そういう意味です。

岸田委員

コアなファンも？

美濃加茂市 オープン参加になるので、地域の学校、幼稚園から来ていただけるのですが、遠くからも来ていただいています。

岸田委員 年間1日？

美濃加茂市 そうなんです。僕もなかなかアートと触れ合うことがないので、子ども連れて行くのですが、違った視点で地域が見られるので、新しい発見がある。実は、雨が多いのですが、雨の中屋根の下でやるのも乙だなと思います。

岸田委員 これを木曾川ひよりさん、これ団体？

美濃加茂市 現代アートの団体で、中山道を現代アートで彩るようなことも何年も続けている。

岸田委員 この中に指導者もいるということですか。

美濃加茂市 そうです。年々違うアーティストを連れてきて。3つくらいワークショップをやって。そのいろんなプログラムに子どもが参加する。どんぐりを拾ってきて、バーンと飛ばすようなこともやって。面白かったですね。

岸田委員 楽しそうですね。

美濃加茂市 絶対楽しい。

加藤（慎） 川まちづくりで、横への広がり、ハードで言うと、川合の線が繋がったのがすごいなと。森山の上流まで歩いて行けるようになった。坂祝がすごくよくなって、坂祝町の輪中、一色が、木曾川を歩いて、対岸の湯の華を見ながら、すごくいいコース。あれはもっとPRできる。

美濃加茂市 そうですね。一番右のこの写真と僕の寝ている写真ですが、これは川合に行く道で、土舗装を施して、すてきなアジサイ街道を行けるということで、川合地区とつながった。

加藤（慎） 美濃川合ともつながった。

美濃加茂市 ダボロードを作ったことで、ガラッと森の使い方が変わってきて、森の中にいっぱい人が歩いている。銅像もある。森の使い方が、1か月くらいで変わってきた。これまでやってきた森の整備がいよいよ生き始めた。

岸田委員 使い方とは？

美濃加茂市 これまでも散策はできたのですが、道ができたことで誘導されるんです。奥でテントを張って、家族でごはんを食べていたり、スケッチしていたり。今は遊具はないが、通路ができるのは非常に大きいなと実感している。

加藤（慎）委員 富加町もいい場所ができたので連携できるといいですね。

- 美濃加茂市 富加町は川まちづくりをやっていて、その担当者とは2か月に一度飲むんですけど、そういった話をしながら、定住の中で連携できるので、ソフトイベントで連携できる。川のリスクマネジメントは広げていきたい。
- 岸田委員 これ全部歩いたら、どれくらい時間かかるのですか。
- 美濃加茂市 美濃加茂市内だと1時間くらい。リバーポートパークから上流から森の中ですと300メートル、10分くらい。ぜひ、行ってください。素敵なので。
- 加藤委員 楽しそう。

生物多様性地域連携促進事業

- 美濃加茂市 (担当者報告)
- 岸田委員 すごい。専門家はどれくらいの方が関わっているのですか。
- 美濃加茂市 人数は、美濃加茂市自然史研究会の方が20人。
- 岸田委員 その方たちが、データを揃えながら1冊の本にまとめた？
- 美濃加茂市 そうです。
- 加藤(慎)委員 COP10に出したら、非常にいい評価。
- 岸田委員 これはすごい、本当。
- 加藤(慎)委員 単独でブース作るくらい。
- 岸田委員 それぞれの分野ごとに。
- 加藤(慎)委員 自分も土地を買って今住んでいますけれども、外来種のページのが結構いますね。啓発も含めこれから使っていければ。
- 岸田委員 5347種と言われた、全国的に見ても特徴的なことは？
- 美濃加茂市 生き物が生息するのは、植物が元になっているのですが、加茂地域は、日本の北半分、南半分が交わる点で、日本海側、太平洋側のちょうど真ん中にある、いろんな植生の交差点になっているということがわかったと聞いています。
- 加藤委員 いろんな貴重な多様なものが集積していると。
- 岸田委員 5347種という数も全国的に見て多い？
- 美濃加茂市 例えば、岐阜市だけで5000種。まだ調査できていないんだなとおっしゃっていました。
- 加藤(慎)委員 将来、アプリで身近に検索できるといい。
- 岸田委員 これは資料の価値として高いですね。
- 美濃加茂市 岐阜大学の先生が、文化の森で最初1000円で販売しようとしていたのですが、それは勿体ないからと2500円で。
- 加藤委員 これはすごい。

- 高嶋委員 これを作ったことで、一般市民の方がどう興味を持ってくれるかと、次のステップ。簡単にアプリで調べられるじゃないですけど、どうしたら一般市民の目にとまるか興味深い。
- 加藤委員 その辺は何かありますか。
- 美濃加茂市 今のところでは、具体的にはないが、いろんなことが分かってきて、自然史研究会の方が地元の方に伝えたい気持ちになってきたので、地域の学習会の機会を作ろうという話になっています。前日の環境フェアのときに出張販売をした。1冊も売れなかったのですが、子どもが寄ってきて、興味をもって、「この本ほしい」と言ってくれた子もいたようで、親さんが「こんな高いのは買わない」と言った。
- 岸田委員 もうちょっと分野ごとにコンパクトにしたら、もっと売れると思います。
- 加藤委員 これだけまとまっているのは見たことない。
- 岸田委員 データとしてバーっと書いてあるところを、もっと。一般の人は見ない。
- 加藤委員 未来予想図のような一覧できるものとか、北、南の話もありましたが、この圏域はこうなんだよという媒体を作るとか、キャッチフレーズとか。来訪者さんが、わざわざ行ってみようとか、知ってもらいたいを考えてほしい。
- 岸田委員 全国にこういう方がいっぱいいらっしゃる。ここが貴重な宝庫なんだというアピールすれば来てくださる。
- 加藤（慎）委員 シークレットツアーね。場所が割れちゃうといけないので。貴重種が。研究者向けだけのツアーとか。

地域情報放送事業

- 美濃加茂市 （担当者報告）
- 岸田委員 先ほどの「アプリを活用しているか、どう把握しているか」とあったが、アンケートはとったことないの？
- 美濃加茂市 アプリの活用に関しては、アンケートはとっていない。周知PRの段階で、各地区の防災訓練の場でアプリを入れてねというアナウンスはしているが、アプリを実際の方がどれだけ使っているかのアンケートは取ったことがない。ららを聞いている人、CCネットを聞いている人は調査しているのですが。
- 岸田委員 その調査をするときに、アプリの項目の調査を入れたりしたらダメなのですか。
- 美濃加茂市 そうですね。

岸田委員 すぐできそうな気がするんだけど。

美濃加茂市 そうですね。

加藤委員 システム的には、何人が聞いているだとか、そういうことはわからないんだよね？

美濃加茂市 ダウンロードしている数になるので、今入っている数しかわからない。

高嶋委員 活用というのは、聞くということですよ。

美濃加茂市 そうです。いろんな機能があり、プッシュ通知機能があるので、例えば災害が想定され防災情報を発信したときに、防災情報がアプリを通じて鳴るので、それを含めた活用。必ずしもラジオを聞くだけではない。防災情報の収集のひとつとして入れてもらう。

加藤委員 台風や、災害時には、数が非常に伸びたと村雲さんに聞きましたが。

美濃加茂市 はい。その数が把握できるなら、聴衆数はわからないのか。

美濃加茂市 伸びたのは、登録者数。ダウンロード数。月ごとに。

高嶋委員 ラジオを聞きながら忘年会しようと、居酒屋、家庭とかで。実際に活用するシーンを作り出すことができるので、使ってみるアピールができるのではないかと思います。

美濃加茂市 そうですね。年末に一年を振り返る番組を予定しているので。生でやるか、収録でやるかの段階です。生でやれば、メールもらいながらやれる。

加藤委員 SNSと連動させたら反応がわかるかもね。実験的にやってみても。

美濃加茂市 やります！生放送で。

加藤委員 僕も慎康さんの番組しか聞いたことないな。

加藤（慎）委員 アプリを入れている方がわかるといいですね。情報とつながれるといいですね。

加藤委員 アプリは民間業者なの？

美濃加茂市 そうですね。

加藤委員 字しかない。テンション下がる。もっとう。

美濃加茂市 デザインももっと言ってみます。

岸田委員 番組に関わる機会をつくっているんですよ。

美濃加茂市 はい。

岸田委員 そういったときに、どれくらいの人たちが手を挙げて、関わっているのかを調べられそう。

美濃加茂市 そうですね。

岸田委員 例えばアイデアをいろいろ出してもらおうとか。

加藤委員 T w i t t e r、インスタと連動したら、聞いたら、ハッシュタグ付

けるとか。

美濃加茂市 年末を期に、いろいろやってみますので。ぜひ、アナウンスしてください。

発言者不明 FMららにメッセージを送れる機能があります。

美濃加茂市 参加型というのはできるのかなと思います。

加藤委員 そうするとできるのかなと思います。

加藤（慎）委員 外国人の放送は？

美濃加茂市 外国人の枠は市の枠でやっていない。ららさんが、独自でやっています。ポルトガル語、英語と。今年度の番組から定住の町の方に出ている、ラジオジャンクションという番組があり、多文化について何かやろうかという話があります。国際交流員に自分の国のことを話してもらったりとか、広報でもやさしい日本語という連載をやっておりまして、外国人とお話をするときのやさしい日本語について、ラジオを通して日本人に呼びかけをしている。

加藤（慎）委員 三重県桑名市が、セブン銀行と連携協定を結んで、外国への送金アプリをレートが一番安いので、セブン銀行を使っている。桑名市の外国人居住者がアプリを起動すると、桑名市の情報を見られるように連動しており、今回はじめるところらしくて。美濃加茂の場合は、国際交流協会がサポートしているからよいが、桑名市はないのでそういう仕組みを使ってやっていくと話しておられます。外国人居住者へも伝える仕組みを作っていければなと思います。

美濃加茂市 いろいろやってみます。

「織田信長の東美濃攻略」を活用した歴史PRマンガ作成事業

富加町 （担当者報告）

岸田委員 非常にわかりやすい報告でした。3月21日22日のフェスは何をやるのですか。

富加町 今回マンガのコンセプトは、マンガ編に表れているわかりやすさ、楽しさの要素と、資料編の専門的内容の二つのコンセプトがあります。このコンセプトを最後にイベントで表現したいということで、初日は、旭堂南海さんを講師に迎えた夕雲の城の講談、トークショー。楽しくわかりやすく学ぶ。二日目は、歴史シンポジウムを一日行う。専門家の方や、圏域外の戦国時代を研究している自治体の方にも事例報告をしていただいて、織田信長の東美濃攻略のイベントを計画しております。

岸田委員 セミナーは名古屋でやったのと同じ？

富加町 そうですね、今年2月の坂祝の猿啄城の内容を盛り込んだ歴史講師を私が務め、名古屋圏の方へお伝えするとともに、3月のイベントの告知を考えています。

岸田委員 講談の内容は変わってないのね？

富加町 講談の内容は、11月は2月に刊行した外伝の内容になります。2年前夕雲を題材とした講談を行いました、今回は外伝を題材にした講談。

加藤委員 潔いですね、このスパッとやめるのが。

富加町 続けることもあります、私も学芸員ですので、マンガを作るだけでなく、地元の資料をきちっと調査した上で、その成果を活用していくので、続けていくとなると資料は残っていないから、資料調査をして、それを踏まえた、普及、活用という流れでやっておりますので。活用ばかりが先行すると、一体何の事業か、人寄せのためのとなると、本来の目的を失うので、そこは線引きをしました。

岸田委員 この本はこれからも普及させていく？

富加町 そうですね。

加藤（慎）委員 いろんな事業者さんとも連携されていて、松井屋さん。松井さんのラベルがこのバージョンになることはない？

富加町 2年前にこの夕雲の城のラベルを用いた新酒を作られまして、松井屋さんにも販売されていますし、今週末にアーラで全国山城サミットがあるのですが、私たちも加治田城のブースで松井さんと一緒にブース出展をするのですが、松井さんも夕雲の城を持っていきますとT w i t t e rで発信されていまして、非常に地元の方と。

岸田委員 この事業をやって大きく変わったのは何ですか。

富加町 二つ。地元の方が、自分たちの住んでいる地域が、織田信長と近い距離にいたんだ、歴史があったんだという気づきになったこと。二つ目は、伝えたいターゲットの一つが子どもたちですが、子どもたちには、織田信長は教科書の中の遠い位置だったのが、お話をすることでこんなにも身近に感じられたと、自分たちからどんどん広めていきたいですとうれしいお声も来ている。そこが大きかったと思う。

加藤（慎）委員 美濃加茂市の堂洞城のルートがきれいになったと、お母さんたちが喜ばれている。

富加町 堂洞城がきれいになったのは、富加町に住んでいる住民の有志の方が、マンガの刊行を期に、訪れるお客さんが増えてきたので、住んでいる町、里山をきれいになりたいとのことで、きれいにしてくださった。

岸田委員 波及効果が大きい訳ですね。

富加町 そうですね。私たちが想定していたよりももっと大きく広く波及した。ありがたい限り。

加藤委員 このプロジェクトが終わったのはわかったのですが、この圏域の中で、マンガでというのは考えられないのかな？史実に基づいた何か。

加藤（慎）委員 学芸員さんネットワークはどうですか。圏域の。

富加町 学芸員を置いている自治体が少ないのもあり、富加町は小さい町ですが、こういったこともやらせてもらえているので。なかなか、専門的な部分もあり、体制が各市町村でできてくると、横のつながりもできてくる。

加藤委員 圏域の中であるのは、美濃加茂市、富加町、あとは？

坂祝町 免許はあるが、担当ではない。

富加町 坂祝町と一緒にこの事業をやり、坂祝町ひとつではできなかったが、美濃加茂、富加、坂祝と一緒にやることで、坂祝町の人的ネットワークやお金を使わせていただいたことで、いち自治体でやるよりも大きなものになり、坂祝町からもお礼を言われた。

おんさいEXPO事業

富加町 （担当者報告）

加藤委員 交流人口が増えたということだが、踊りに来ているのであって、この地域が主目的でなく来られていると思う。そういう人たちが、この地域を訪ねてみようと思ったり、地元と交流しようとする手立てはありましたか？パフォーマーとして来るのと、地域と交流したいと来るのと意味が違うと思うんです。結ぶ努力があったのか。

富加町 残念ながら、そういった交流はありません。

加藤委員 正直に言っていただいてありがとうございます。

富加町 逆にどういう仕掛けがあるとよかったですでしょうか。

加藤（慎）委員 マラソンとか。例えば、みんながバナナを渡してくれたとか。演舞者に対して、何かホスピタリティーがあったりとか。地域の方にこんなことをしてもらってよかったとかがあったらよかったです。また、来たいなとか。クラウドファンディングをやるのならば、出展者が積極的に呼びかけをしてくれるようになるとか。

高嶋委員 交流という意味では、例えば参加費の1割でもいいので金券を渡されて、地元の商店で使ってくださいねとか。強制的に地元の商店とのつながりと増やすとか。地元にお金が落ちて、地元の人にも喜ぶ。そうしないと、踊り子さんたちは会場だけで滞留してしまうので。町に利益

が全然落ちない。

加藤委員 これまでも今のようなアドバイスをしていると思うんです。でも、それが毎年の発表で感じられなかった。定住自立でやられるのならば、その部分は欠かせなかったと思うんですね。

岸田委員 小学生の演舞指導に外から来た人がどれくらい関わったのだろうか、このへんはわかっていますか。

富加町 半布里さんだけです。

岸田委員 外から来た人が、何か一緒にできていれば、ふれあいも違った形が生まれるかもしれないと思う。

加藤（慎）委員 清掃活動をやったり、電車を待つときもすごくきれいに並んだりとか。市民に迷惑をかけないようにしっかりやったりとか。そういうのが続いていけば、里山公園のみなさんももっとやっていこうよとなるんじゃないかと思いました。

高嶋委員 もし次にやられることがあれば、お客さんがお店に行こうと思うのは、お店があるからではなくて、欲しいものがそこにあるからだとする、このイベントだけではないかもしれないですけども、このお店に行ったら何があるんだっていうのをちゃんと目に見えるようになっていて、来たみなさんに配られるというような状況が生まれる。商店街のみなさんは、人が来るだけでは迷惑だと、店には来ない。魅力的な商品がないと、店には来ないので、そこはどうやって魅力をつくるんだっていうことを含めて、町全体のイベントを考えられた方がいい。

岸田委員 クラウドファンディングをやってまでも、それをやる意志はどれくらいあるんでしょうか。

富加町 継続はしない方向。

加藤委員 町として推す理由は何かあったのですか。半布里を応援する理由。

富加町 半布里は、富加の町から元気を発信とのことで、小さな町だが大きなチームでやることができると発信力がある。

加藤（慎）委員 移住者もいますよね。

富加町 半布里さんが大きいので、福井県や他県の方も見えるので。

加藤（慎）委員 そういうことも発表してもらおうと。

事務局 村井 委員のみなさん一言ずつお願いします。

岸田委員 担当者が心を込めてやったものは、成果に繋がっている。最初の大きな差になっている。

加藤委員 最初、どうなるのかなと思っていたものが、大きくなっていたり、予

想を裏切っていい意味で成長したのを見せていただいて、ものすごくいい経験だった。関わりが終わってしまうのがさみしい。人間関係としていろんな職員、担当者とお知り合いになれたので、それくらい長い期間関わらせていただいたんだと改めて今日思いました。

高嶋委員

ビデオで「地球と住む町」を流していました。すごくいいキーワードだなと思って。でもあれは初めて見たかもしれない。日本中で、川と山はたくさんある。どこも代り映えはしない。どう魅力をつかんでいかかわからない中で、事業を通じて見せてくれたりとか、使い方やシーンを提案してくれているなと感じた。東京だと、2拠点居住とか、デスクワークならどこでも一緒なら、リバーポートパークはここで仕事をするなら非常に快適ですよ。一回やってみるとみんなそう思うし、名古屋にはそういう空間がないのでここに来てやりたいと思うだろうし、ここに来て思うのは、そういう人たちにアピールすると拠点居住とか週の半分はこっちに住んでとか結構出てくるんじゃないかと思う。さっきのキーワードが伝わるとももっともっと面白い展開に繋がる。可能性を感じる。

加藤（慎）委員

1年目は、名古屋から通って、2年目はこっちに住んで。とても豊かな町だなと感じています。今回もそう思いました。データ取りがちゃんとできていて、それを反映させていること、オープンソースのような場所で他の活動を接続したり、地域と連携してやっているところは広がっているんだなと思いましたので、これからも取り組みをしていくときに連携市町村とオープンソース化していくのは大事だなと思いました。

加藤委員

「地球と遊べるまち」につながる事業は、こったネーミングを付けられるんですけども、同じ圏域で同じキャッチフレーズでやっていこうとかもう少し、プランディングとか2期やってみての知見を個に固めるのが美濃加茂市の仕事だと思う。バラバラに付けたものは一つにして波及効果を高めることをされると、冠やキャッチフレーズは大事で、考えられるとよりよいかと思いました。

渡辺推進室長

長時間ありがとうございました。委員のみなさんも長時間のプレゼンを聞いていただいてありがとうございました。またわくわくするようなご提案をいただき、最後の最後で出てしまった部分もあり、もう少し時間があればいいかなと思います。これからもご意見をいただきながら活動していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。定住担当の方もありがとうございました。今日聞いた委員の方の意見を

ぜひ行政でも生かしていきたいなと思いますので、第2次、第3次よろしく願います。本日はありがとうございました。